

自然教育園でシジュウカラの調査を行います ～テリトリーマッピング法をマスターしよう～

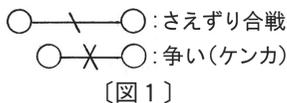
ツツピー・ツツピーという力強いシジュウカラ〔写真〕のさえずりは、春を感じさせる歌です。その初囀（しょてん：初鳴き）は、ウグイスやヒバリよりはやく、1月になると梢から響き渡ってきます。さえずり（ソング）は何のためかは、ご存知のことと思いますが、ひとつは、この場所は私のものだというなわばり（テリトリー）宣言であり、もう一つは、雌への求愛メッセージです。大事な子孫を残すための仕事の第一歩というわけです。



さて、さえずりを利用して、その場所に何番いの鳥がいるかを明らかにする調査方法があります。「テリトリーマッピング法」というもので、シジュウカラをはじめ、ホオジロやオオルリ、キビタキなど、大きな声で歌う鳥には共通して使えます。

方法はまず調査地を設定します。調査範囲は1回2時間程度でくまなく回れる程度の面積とし、その場所のなるべく詳しい地図を用意します。調査区域を拡大して、記入がしやすい白地図を作成すると便利です。地図は1回の調査で1枚使いますので、20～30枚程度は必要です。調査はさえずりが一番さかんな3月下旬から5月上旬ごろまでの間で20回程度実施します。一日に何回調査を行っても大丈夫ですので、土曜・日曜など時間がとれる日を設定してください。

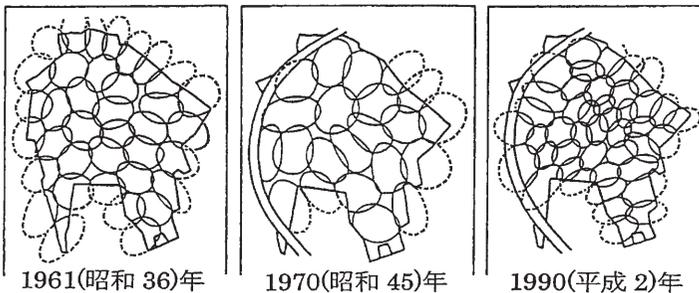
テリトリーマッピング法・地図記入例



調査日には、双眼鏡を胸に、調査地地図をバインダーにはさんで、調査地を歩きながら、シジュウカラのさえずっている場所を地図上にプロットしていきます。何回か回っていると、ソングポストがわかってきたり、2羽以上が同時にさえずるとき（さえずり合戦）があったり、また、2羽が直接争う（ケンカ）現場に出会うこともあります。

それらを記号で記していきます〔図1〕。10回くらい調査したら、一度白地図にそれまで得られた情報を記入しまとめてみます。おぼろげながらそれぞれの個体のテリトリーが浮かんできます。さらに調査を続けるとなわばりの境界線がはっきりしてきます。そんな作業を続けると、その地域にすむシジュウカラのテリトリー数がわかります。さえずるのは雄だけですが、ほとんどは連れ合いの雌がいるはずですので、その倍の数が生息するというわけです。

港区の自然教育園では長年調査が行われてきました。年によってなわばりの面積が違うことがわかります〔図2〕。テリトリーの面積が



〔図2〕自然教育園のパンフレットから

広いときは、生息環境が悪いことを意味しています。今年の春は、自然教育園・野鳥調査会で、2013（平成25）年の状況を調べます。興味ある方は、9ページをご覧ください。参加申し込みをしてください。

（川内 博）